

越前市政報告

越前市長 奈良俊幸

来年9月～10月に開催される「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」において、フェンシング競技の会場となる武生中央公園総合体育館、並びに武生中央公園「だるまちゃん広場」の完成式典を8月11日に挙行了しました。

総合体育館は、メインアリーナとサブアリーナから成り、建築面積は約7,268㎡と旧体育館の約1.7倍の広さで、空調設備も完備しているため、全国規模のスポーツ大会をはじめ多様な利用が図られることを期待しています。

エントランスロビーは一部吹き抜けで、外壁にはガラスを大きくとったため、明るく開放感にあふれた空間になるとともに、越前和紙や越前指物、越前打刃物などを活用し、地場産業をアピールする施設になっています。

8月19日・20日に「紫式部杯第70回全国競技かるた福井大会」が、26日から30日には「フェンシング・エペ種目のナショナルチーム合宿」が、9月2日・3日には「日本女子フットサルリーグとデフフットサルエキシビジョンマッチ」が行われるなど、バスケットボールや吹奏楽を含め、日本を代表するトップチームが参加した完成記念イベントが年内に5回開催されます。

一方、「だるまちゃん広場」は、越前市出身で日本を代表する絵本作家・かこさとし氏が監修を務め、「だるまちゃんとかみなりちゃん」や「からすのパンやさん」などをモチーフに、同氏の絵本の世界を映し出す空間として整備しました。

「からすのパンやさんのかざぐるま塔」や「だるまちゃんとかみなりちゃんのふわふわ雲」などの大型遊具が設置され、かざぐるま塔には「ぞうのめせん」「きりんのめせん」「どうぶつのとぶたかき」など、動物の大きさや跳躍力などが分かる工夫がされています。

絵本「宇宙」をモチーフに、太陽系を表した平面噴水や、絵本「かわ」をモチーフにしたせせらぎ、絵本「あさですよ よるですよ」をモチーフにした幼児向け遊具「まめちゃんえん」なども設けられてい

ます。

ベンチ（「かみなりちゃんベンチ」）やマンホールカバー（「だるまちゃんとかみなりちゃん」「からすのパンやさん」）にもキャラクターが描かれ、かこさとし氏の絵本の世界が武生中央公園の至る所に表現されています。

併せて、文化センターの壁面には、かこさとし氏寄贈の『越前山歌』を壁画化し、「だるまちゃんシリーズ」の登場人物が勢揃いして、越前市の村国山と日野山から世界の最高峰を目指して行進する姿が描かれています。

広場の監修に際しては、子どもたちの色々な個性を伸ばし、豊かな発想力を持った子どもたちが、自ら判断できる子になって欲しいとのかこ氏の願いが込められており、広場を訪れた子どもたちが「遊び」を通して、「学ぶ」ことの楽しさを知ってくれることを期待しています。

なお、9月10日には文化センター中ホール跡地に、多目的施設「かみなりちゃんのおうち」と飲食施設「はぐもぐ」が入居する、公民連携の複合施設もオープンしました。

「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」については、国体のプレ大会として7月28日から30日まで、「男子第62回・女子第61回全日本実業団ソフトテニス選手権大会」が武生中央公園庭球場で開かれました。

会場には子どもたちが作製したのぼり旗などが飾られるとともに、受付や飲み物の提供に従事したボランティアや、競技の補助に活躍した中高校生などの協力を得て、成功裏に開催されました。

引き続き9月16日・17日には武生東運動公園ソフトボール場で「第69回全日本総合女子ソフトボール選手権大会」が、12月15日から17日には武生中央公園総合体育館で「第70回全日本フェンシング選手権大会団体戦」が開かれます。

新庁舎の建設については、平成30年8月末の完成に向け、今立総合支所が入居する複合施設の起工式を4月17日に行いました。

複合施設は鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造の平屋建てで、延べ床面積は約1,880㎡です。

この施設には、今立総合支所と越前市商工会が入居する他、災害発生時に現地対策本部を開設する会議室、250人が収容できて講演会やイベント、絵本の読み聞かせなどが行える多目的ホール、料理教室や災害時の炊き出しにも利用できる調理室などが設けられます。

また、内外装に本市の伝統的工芸品である越前和紙などを使用することで、地場産業をアピールし、ぬくもりのある空間づくりを心掛けました。

一方、本庁舎の建設については、平成31年10月末の完成に向け、8月22日に起工式を行いました。

本庁舎は鉄骨造6階建て、延べ床面積は約12,570㎡で、四方正面の考え方のもと、玄関が東西南北の4箇所あります。

内外装には本市の伝統的工芸品などを使用し、生涯学習施設として200人が収容できる多目的ホール、茶華道やかるたが行える和室、調理室や視聴覚室などに加え、市街地の眺望が楽しめる展望ラウンジなどの市民利用機能を備えています。

また、熊本地震の教訓を踏まえ、建物の構造は大きな地震の揺れを抑えることができる制振構造とし、停電や断水時の対応として非常用発電装置や井水利用のポンプ設備のほか、排水管を活用したマンホールトイレを整備します。

なお、埋蔵文化財の発掘調査により出土した石垣や礎石等については、新庁舎前の「ひろば」に遺構の配置などを再現し、活用する予定です。

北陸新幹線の整備については、5町内で用地取得を終え、8月30日現在の用地取得率は92%となっています。

また、新幹線本体の土木工事も本市地係7工区の内、5工区で契約を終え、秋以降に本格化します。

南越駅（仮称）の周辺整備については、用地測量及び駅前広場の詳細設計を行っており、年内に用地協議に着手する予定です。

また、鉄道・運輸機構から今秋に駅舎のデザイン案が複数提示される予定となっており、議会をはじめ市民のご意見をお聞きしながらデザインの選定を行い、鉄道・運輸機構に回答する予定です。

人口減少への対応については、平成27年11月に策定した「越前市総合戦略」に掲げる5つの基本目標を着実に推進するため、全庁を挙げて人口減少対策・定住化促進対策の取組みを進めています。

住民基本台帳に基づく9月1日時点の人口は8万3,081人で、1月1日時点の人口と比べ、県内一の134人の増加となりました。

毎年3月に県外の大学への進学者が多数転出するため、上半期の人口が増えたのは、平成17年10月の合併後初めてとなります。

市内企業の雇用増大を受け、居住促進のための住宅支援策を充実し、「おうちナビ」による空き物件の情報発信など積極的なPR活動を実施するとともに、市内大手企業と地方創生に関する包括的連携協定を締結するなど、企業との連携強化を図ってきた効果が表れたものと分析しています。

伝統産業の振興については、平成27年3月に策定した「越前市工芸の里構想」に基づき、産地の振興や産業観光による地域活性化に取り組んでおり、4月にリニューアルオープンした「紙の文化博物館」においては、和紙産地の五箇地区の魅力を5箇国語・6言語で案内する多言語化システムを稼働し、無料Wi-Fiの環境も整備して、国内外からの観光客に和紙文化の紹介・発信を行っています。

また、2階展示室の枯らし（乾燥）期間を経て、9月30日から特別展「和紙の真髄－越前奉書の世界－」を開催します。

なお、7月21日には国の文化審議会が「越前鳥の子紙」の重要無形文化財指定について文部科学大臣に答申を行いました。

越前打刃物については、歴史に育まれた技術を保存・伝承するため、平成30年9月のオープンを目指し、8月29日に打刃物拠点施設の起工式を行いました。

同施設は、木造平屋建ての「展示棟」、鉄骨造平屋建ての「研修棟」、鉄骨造平屋建ての「工房棟」の3棟から成り、延べ床面積は約612㎡で、「工房棟」は伝統工芸士が若手に技術、技能を伝える場、「展示棟」は打刃物の歴史、特色、製造工程の紹介や資料の展示をする場、「研修棟」は団体客への説明、包丁の試し切り体験、バイヤーとの商談等の場として活用することを計画しており、越前打刃物のブランド力をさらに高めてまいります。

観光の振興については、「ちひろの生まれた家」記念館の北側建物が9月15日に絵本カフェとしてオープンしました。

同記念館では、新しい展示室がオープンした平成28年4月から、年4回の企画展を実施しており、いわさきちひろ生誕100年の平成30年には福井国体も開催されるため、まちなか観光の核として整備促進を図っています。

2017たけふ菊人形については、「菊花絵巻 井伊直虎」を菊人形館の展示テーマとし、10月5日から11月5日まで開催します。

今年から会場入場料を無料とし、中学生以下は昨年同様、菊人形館の入場料とOSKレビューショーの観劇料も無料にするなど、入場者数の大幅な増加を目指しています。

コウノトリが舞う里づくりについては、2月に「みほとくん」が越前市白山地区に戻って、昨年4月から長期滞在している「ゆきちゃん」とのペアが復活し、自然繁殖として県内で51年振りの産卵が2月下旬から3月上旬にありました。

残念ながらヒナの誕生には至りませんでしたでしたが、これまでの取り組みの成果が着実に表れつつあります。

2羽は引き続き白山地区に滞在しており、今後の自然繁殖を大いに期待しています。

また、県が白山地区で飼育している「ふっくん」と「さっちゃん」も4月に5個の卵を産卵しましたが、残念ながら全て無精卵であったため、昭和45年に本市に飛来したコウノトリ「武生」の娘の「紫」が産卵した有精卵を、兵庫県立コウノトリの郷公園から提供いただいたり、5月14日から16日に3羽のヒナが誕生しました。

残念ながら1羽は死亡しましたが、本年も10月8日に県とともに、2羽のコウノトリの放鳥を計画しています。

今後も地域住民や関係団体と連携し、コウノトリの野外定着のための餌場環境づくりとして、環境調和型農業の一層の推進や休耕田を活用したビオトープ等の整備を進めてまいります。

2月28日に発生した越前市蓬萊町火災への対応については、これ

までに10回の対策会議を開催し、被災者と関係団体で構成する蓬萊町火災復興協議会と連携しながら、被災者への支援や今後の市の対応等を検討し、順次実施してきました。

今回の火災は、2月28日の午前5時30分頃に出火した後、建物が密集している現場の状況等から消火作業が難航し、午前10時03分ようやく鎮火しました。

死傷者はなかったものの、6世帯23人が被災し、建物5棟が全焼、1棟が半焼、4棟が部分焼、1棟が水損するなど計11棟が被害を受け、焼損床面積の合計は1,347㎡に上り、昭和45年に南越消防組合が発足してから最悪の火災となりました。

被災地の復興計画については、仮住まい等の状況から被災者には早急に再建したいとの意向が強く、土地の貸借に抵抗感もあるため、個別再建を基本とする一方、景観や賑わい創出、防火・防災の観点から、引き続き被災者の協力を求めているところです。

同火災を踏まえ、防火広報や警戒活動の一層の強化に加え、住宅密集地で大規模火災を想定した警防訓練を実施するとともに、延焼危険の高い防火地域・準防火地域において火災を覚知した場合、もしくは強風時に火災を覚知した場合は出動体制を見直し、第1出場の部隊運用を5隊から7隊に増やしました。

以上、当面する市政の重要課題について、取組みの一端をご紹介しました。

今後も「元気な自立都市 越前」の創造を目指して、市民と協働のまちづくりを推進してまいりますので、武生郷友会の会員の皆様には、ふるさと納税をはじめ市政に対する引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。